

安藤なの香議員

議案第64号、令和3年度伊丹市一般会計補正予算（第7号）の中から、3つの事業についてお尋ねします。

まず「公園緑地等管理運営事業」についてです。老朽化した都市公園3箇所（伊丹緑地、鋳物師公園、荒牧バラ公園）のフェンス更新工事を実施するとのことですが、何の目的のフェンスなのか教えてください。また、高さはどのくらいかについても教えてください。

次に「教育支援センター「やまびこ」整備事業」についてです。既にやまびこ改修工事がありましたが、その際に今回の工事が入っていなかった理由を教えてください。

次に「小学校普通教室転用事業」についてです。児童数の増加や法改正による35人学級編制を見据え、普通教室を計画的に確保するため、コンピューター室等を普通教室へ転用するとのことですが、

また、今回の事業については（南小学校、花里小学校、稲野小学校の）3校です。それぞれの学校における転用の目的についてお伺いします。またこの3校が事業対象になっている理由と、他校に比べての優先性についてもお伺いします。最後に今後の転用事業の計画についてお伺いします。

市民自治部長下笠正樹

私からは、「公園緑地等管理運営事業におけるフェンスの更新について、何の目的のフェンスなのか、高さはどのくらいか」の質疑にお答えします。

本定例会において補正予算として上程しております、公園緑地等管理運営事業は、伊丹緑地、荒牧バラ公園、鋳物師公園の3カ所の都市公園において、老朽化したフェンス約260mの更新を行おうとするものです。

伊丹緑地については、猪名野神社から伊丹坂トンネルまでの間の園路東側が法面となっていることから、法面への転落防止など利用者の安全性を確保することを目的として、順次、老朽化した竹柵（たけさく）をメッシュフェンスに更新してきております。具体的な工事箇所としては、伊丹坂トンネルの南側の一部と宮ノ上公園に隣接する箇所の約86mについて、高さ1.2mのメッシュフェンスを設置するものです。これにより猪名野神社から伊丹坂トンネルまでのフェンスの更新は完了することとなります。

荒牧バラ公園については、芝生広場とバラの鑑賞スペースを仕切るための横断防止の役割と、つるバラを這わせ修景的機能を持たせた洋風の木製フェンスを更新するものです。このフェンスはラティス型フェンスと呼ばれ、バラ公園全体のデザインと統一性を持たせた意匠となっています。今回の工事では現状と同等の高さである1.2mのラティス型フェンス、約86mを更新いたします。

鋳物師公園については、現在、公園西側に道路への飛び出し防止を目的とした高さ1.5mのネットフェンスが設置されております。

今回の工事では、公園敷地が道路面よりも高い地形となっていることから、道路への土砂の流れ止めを兼ねた土留め壁を設置し、これを基礎として、高さ1.2mのメッシュフェンスを約88m設置するものです。

今後も引き続き、公園施設を適切に管理し、市民の皆様へ安全かつ快適にご利用していただけるよう取り組んでまいります。

学校教育部長早崎潤

私からは「令和2年（2020年）度の教育支援センター『やまびこ』の改修工事に屋上防水工事が入っていなかった理由」についてお答えいたします。

教育支援センター「やまびこ」における昨年度の整備項目は、幼稚園舎から転用するための教室改築、空調、トイレ・洗面等でありました。その他の設備等につきましては、施設計画に基づき改修工事等を実施する計画を立てており、屋上防水工事は令和10年（2028年）度改修の予定でした。

しかし、令和3年（2021年）1月に、学習室天井の雨漏りが発生し、部分的な補修を行いました。令和3年（2021年）5月に新たな箇所からも雨漏りが発生するなど学習の妨げとなっておりますことから、屋上防水工事の実施が必要であると判断し、屋上防水工事の一部を施設計画から前倒しして行うことといたしました。ご理解賜りますようお願いいたします。

教育総務部長馬場一憲

私からは、議案第64号 令和3年度伊丹市一般会計補正予算（第7号）のうち、普通教室転用事業に関する数点の質疑にお答えいたします。

まず1点目の「それぞれの学校における転用の目的は何か」についてですが、令和6年度以降の35人学級編制を踏まえた令和9年度までの必要普通教室数の推計の結果、今後、必要普通教室数が増加する学校におきまして、現在の普通教室に加え、さらにコンピュータ室等から転用を図り、普通教室を確保することを目的としております。

次に2点目の「なぜこの3校なのか、他校と比べての優先性は」についてですが、3校の内、2校におきましては、推計結果から来年度、必要教室がそれぞれ1教室増加するため、今年度におきまして優先的に進めるものです。

また、残りの1校につきましては、来年度に必要教室数の増加はないものの、再来年度以降に急増

が見込まれ、今後も転用工事が必要となる中、今年度の転用工事を来年度以降に後ろ倒しした場合、工事が集中することとなり、学校現場の負担増に加え、職員のマンパワーにも課題が出てくると想定されますことから、今年度に前倒しして、整備する予定としました。

また、残りの小学校につきましては、来年度は推計上、必要教室数の増加が見込まれておらず、また、その後も急増が見込まれていないなどから、今年度の優先的な転用を予定しておりません。

最後に3点目の「今後の転用事業の計画はどうなっているのか」についてですが、現在の推計に基づき、来年度におきましては、今年度整備予定の3校に加え、伊丹小、笹原小の2校につきまして普通教室への転用工事を予定しております。令和5年度以降につきましても、推計値に基づき、学校長等と教室の使用状況等を踏まえ、必要に応じて、整備していく予定としております。